

水島製油所における重質油熱分解装置の生産能力増強工事の完了について

1. 当社(本社:東京都港区虎ノ門二丁目、社長:松下功夫)は、製油所の競争力強化を図るため、昨年9月から、当社水島製油所(所在地:岡山県倉敷市、所長:木村政信)の重質油熱分解装置(注)の生産能力増強工事を進めてまいりましたが、このたび、工事が無事完了し、去る4月30日に運転を開始いたしました。
2. 近年、国内の石油製品の需要構造は軽質化(白油化)が進んでおり、今後もこの傾向が続くものと予想されております。一方、原油につきましても、世界的な石油製品の需要構造の変化に伴い、軽質原油の需要が拡大していることから、重質原油と軽質原油の価格差(重軽格差)が拡大する傾向にあります。
3. 水島製油所では、これまでも重質油熱分解装置を有することから、一般的な国内の製油所に比べて、より重質な原油の処理やC重油の生産比率の低減に対応することができましたが、今回の増強により、市場の変化に一層柔軟に対応できる機動的な生産体制の構築が可能となります。
4. 具体的な生産能力増強の概要は次のとおりです。
 - (1)装置名:重質油熱分解装置(Delayed Coker Unit)
 - (2)増強能力:4,000BSD(増強前:26,000BSD → 増強後:30,000BSD)
 - (3)改造内容:加熱炉の増設やポンプ能力の増強等
 - (4)投資額:約20億円
 - (5)工期:2006年9月27日～2007年4月18日
 - (6)運転開始:2007年4月30日
 - (7)施工:日揮(株)、日陽エンジニアリング(株)

以上

● 【参考資料】重質油熱分解装置の写真



今回増設した加熱炉



「重質油熱分解装置」の全体写真